

# 早稲田大学ビジネススクール

(早稲田大学大学院商学研究科専門職学位課程ビジネス専攻)

## 2013 年度一般入学試験問題（冬募集）

### 「小論文①」

#### 注意事項

1. この試験では、問題冊子のほかに、解答用紙1枚（白色）および下書き用紙1枚（クリーム色）を配付する。
2. 試験開始の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
3. 問題は、1ページから4ページに記載されている。試験開始の指示後、問題冊子に抜けているページがないか、解答用紙および下書き用紙が全てあるかを確認すること。
4. 解答用紙および下書き用紙は書き損じても新しいものを配付しない。
5. 小論文①は全ての設間に解答すること。配点は100点である。
6. 解答用紙の所定の欄に氏名、および受験票に記載されている受験番号を正確に記入すること。数字は読みやすいように、はっきり記入すること。
7. 解答用紙への記入にあたっては、設問番号を確認し、間違えないように気をつけること。
8. 筆記用具は黒色または青色のインクのペンまたはボールペンを使用し、解答は解答用紙の所定の欄にはっきりと書くこと。消しゴムで文字を消すことができるインクのボールペンの使用は認める。
9. 修正テープ、修正液の使用は認める。
10. 筆記用具、修正液および修正テープは貸与しない。
11. 下書き用紙（クリーム色）は自由に使用して構わない。
12. 試験終了後、解答用紙を回収する。問題冊子・下書き用紙は持ち帰ってよい。

# 早稲田大学ビジネススクール

(早稲田大学大学院商学研究科専門職学位課程ビジネス専攻)

## 2013年度一般入学試験問題（冬募集）

### 「小論文①」

ある小さな島（X島）の漁業に関する以下の文章を読んで、2ページから4ページの図を参考にしながら、設問Ⅰ、ⅡおよびⅢに解答してください。なおデータは1990年からの10年毎のものを示したものであり、現在は2010年末です。また2020年のデータは予想です。

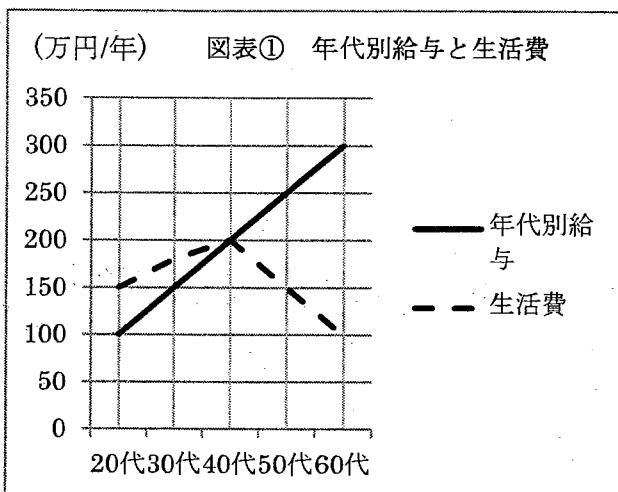
X島では昔から漁業が主な産業で、島の若者（男性）は、学校を出ると、まず小さな舟に乗り、島の周囲でさまざまな漁をし、20歳になると島のより大きな船に乗り込んで、遠方の漁場に行き漁をして一週間程度で帰ってくるという生活をしてきています。現金収入は大きな船で獲った高級魚を本土の港で売って得ています。島で取れた野菜や魚介類は島で消費しています。みんな代々続いた家を持っており、まだ住むことのできる空き家もたくさんありました。

船は船主の一族が所有していて、船主は漁の利益で暮らしています。一方漁師は漁に比例した給与をもらっています。漁は安定していて、一年を通じてみると毎年ほぼ同じ金額の収入があり、今後もそう予想されていました。この島では船主の一族と血のつながりのある漁師も多く、船主は尊敬されていました。重要な決定は皆で十分に相談して決め、船主は代々利益を島の発展のために投資することを厭わず、いったん漁師になったものは彼らが自分から辞めない限り、面倒を見てきました。昔は50歳でも漁師の仕事はつらいという人がいましたが、最近では60代でもまだやれるという人が増え、やりたい人は船に乗せて給与を支払っています。ただ、65歳を過ぎた漁師は収入がなくても暮らしに不自由しておらず、一方で漁師としては大した役には立たないため、どちらかというと足手まといだと思われていました。昔から漁師の世界では経験が重視され、長幼の序がはつきりしていたため、給与は年齢とともに上がり、同じ年代なら同じ給与となる仕組みでした（図表①参照）。この島には漁師を目指す青年が数多くおり、結婚する相手も島にいました。ただ、漁師をやっていても結婚し家庭を作るだけの生活費を得られないため、恋人と一緒に島を出るものが増えしていました（図表②参照）。なお図表①に示されている生活費は、現在漁師が結婚して家庭を持つ場合に必要な現金収入を示しています。

船主は船を整備し、次第にさまざまな機械を導入することで、船に必要な最低人数（漁が一番忙しいときの持ち場の数で示しています。）や力仕事の量（図表では必要な体力を指數として表しています）を減らしてきました。しかし機械化は漁の成果にはなんら影響がありませんでした。2010年まで機械化を加速化させ、さらに2020年に向けて技術の許す限り機械化を進める予定にしています（図表③、④、⑤参照）。船を動かすには乗り込む漁師の合計の経験量を満たす必要があり、指數で一船あたり10単位必要です。年齢ごとの体力と経験量は図表⑥に示すとおりです。1980年の船の数は7

隻、90年と2000年には8隻に増え、2010年にはまた7隻に戻ってその後はそのまま変化しない予定です。

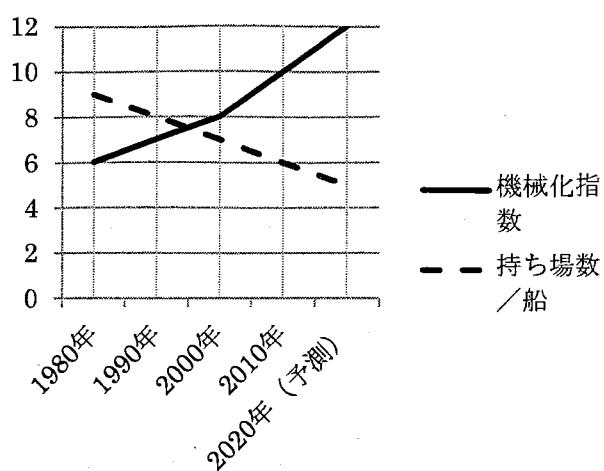
最近、将来も漁が成り立つためにはかなり大きな変革が必要であるという機運が広がっています。いま島で話題になっているのは、島を去った若者を呼び戻すことです。まだ議論が必要でしたが、漁師の給与を年齢に関わらず一律にするという意見もでていました。他にも意見はいろいろありました。一方で漁師の平均給与を増加させることはコスト上難しいという制約もありました（図表⑦参照）。



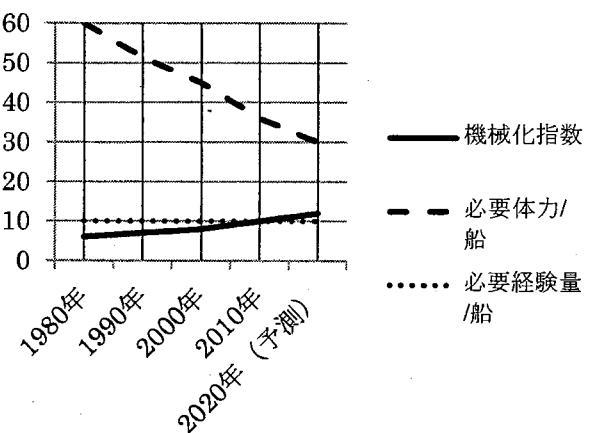
図表② 年代別漁師数の推移 (人)

	1980年	1990年	2000年	2010年	2020年(予測)
20代	35	30	20	4	0
30代	15	25	15	10	2
40代	10	10	20	10	5
50代	5	8	9	18	9
60代	1	2	5	8	16
合計	66	75	69	50	32

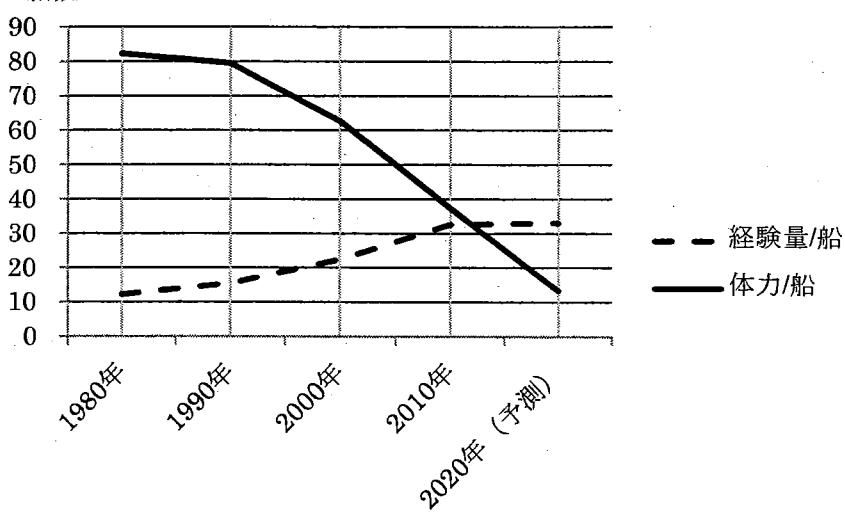
(指数) 図表③ 機械化指数と持ち場数



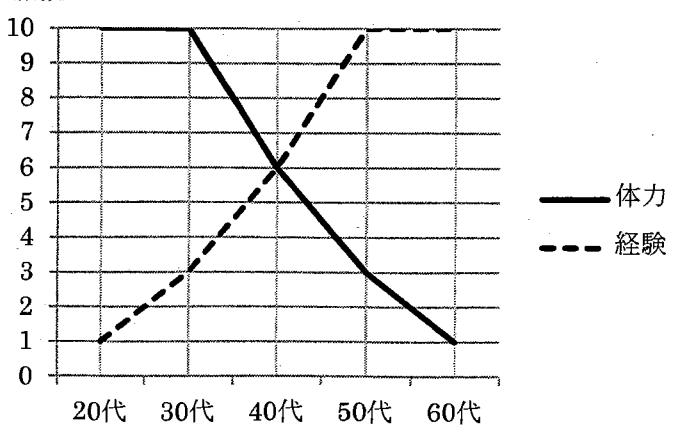
(指数) 図表④ 機械化指数と一隻当たり必要体力と必要経験



(指数) 図表⑤ 経験量/船と体力/船の推移 (島全体)



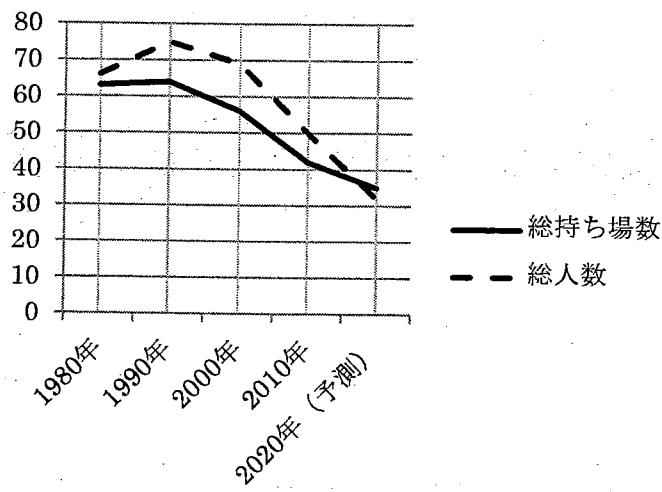
(指数) 図表⑥ 年代別体力と経験



図表⑦ 島全体の給与総額の推移 (万円)

	1980年	1990年	2000年	2010年	2020年(予測)
20代	3500	3000	2000	400	0
30代	2250	3750	2250	1500	300
40代	2000	2000	4000	2000	1000
50代	1250	2000	2250	4500	2250
60代	300	600	1500	2400	4800
合計	9300	11350	12000	10800	8350

(人) 図表⑧ 総持ち場数と総人數



### 設問Ⅰ

前述の文章と図表をもとに、この島で起きていることをわかりやすく 600 字程度で説明してください。  
ただし事実としてはっきり言えることと、推測などを含んだことははっきり分けて説明してください。

### 設問Ⅱ

設問Ⅰで議論したことをもとに、漁を将来も維持するためには何が必要なのか（何が足りないのか、  
いけないのかなど）について 200 字程度で説明してください。

### 設問Ⅲ

設問Ⅱの解答をふまえて、この島の漁師の制度をどのように変更すればいいと考えますか。考えられる案を出して、それぞれを評価してください。その上で何をすべきか提案してください。  
(400 字程度)

氏名	
----	--

受験番号	
------	--

(採点欄)
-------

(採点欄)
-------

※上記の所定欄以外に受験番号・氏名を書かないこと

早稲田大学ビジネススクール  
(早稲田大学大学院商学研究科専門職学位課程ビジネス専攻)

2013年度一般入学試験（冬募集）小論文① 解答用紙

設問 I

1

5

10

15

20

25

30

(採 点 欄)

(採 点 欄)

## 設問 II

1

5

10

### 設問III

1

5

10

17

20

以下のスペースには解答を記述しないこと。